

御朱印でめぐる 福山の神社



展示のご案内

期間:2026年2月2日(月)~2026年5月11日(月)
場所:中央図書館 2階 展示スペース
内容:福山市内及び近隣県の神社の紹介と御朱印の展示

関連図書

- 『御朱印でめぐる広島岡山の神社』改訂版
地球の歩き方編集室/編集 Gakken [K175コ]
- 『写真でみる広島神社』
広島県青年神職会/編著 南々社 [K175シ]
- 『日本の神々 2』
谷川 健一/編 白水社 [K175ニ2]



御朱印のルーツは、お寺へ写経を納めた証あかしにありました。江戸時代にはすでに神社でも授与されていたといわれ、古くから人々の信仰と歩みを支えてきたものです。

今では参拝の証として親しまれていますが、ページを開けば、そこにはその日その場所あかしでしか出会えない生きた文字が踊ります。あなただけの歴史を刻む、御朱印めぐりの旅に出かけてみませんか。



今までにあった質問と回答を一部紹介します



質問 鞆の伝説「ささやき橋」について書かれた本が見たい。

回答 鞆の正覚山静観寺の前に「ささやき橋」という橋があります。この橋には、約 1,600 年前から語り継がれる悲恋物語があります。五世紀ごろ、百済から大和朝廷と親交を結ぶため、王仁博士が来貢（貢物を持参する）する途中、鞆の浦に立ち寄りました。当時、鞆には宮廷の人々や外国使節のための接待所があり、世話係として武内臣和多利という役人が派遣されました。そこで出会ったのが、管弦をもって旅情をなくさめる接待官だった官妓の江の浦でした。和多利と江の浦はいつしか惹かれあうようになり、使節団の接待があるにもかかわらず、人目を忍んで橋のもとで会うようになりました。しかし、職務怠慢の噂が世間に広まり、罪人となった二人は海に沈められました。現在、「江の浦」という名は鞆の地名として残っており、鞆の人々がこの伝説を伝えるため、二人が恋をささやいた場所には「ささやき橋」という名の小さな橋が作られています。

★『歴史紀行鞆の浦』
森本 繁／著
芦田川文庫 [K211モ]

★『鞆今昔物語』
表 精／著
表 精 [K380オ]

★『沼隈郡誌』
沼隈郡役所／編
名著出版 [K201ヌ]

★『備後鞆むかしがたり』
表 精／著
芦田川文庫 [K380オ]

★『鞆の浦』
鞆青年団 [K211ト]

郷土資料★新着本の紹介

□『広島藩の幕末維新史 芸藩事情』
黒田 和子／著 国書刊行会 [K217ク]

□『高等学校「学びの变革」広島県の挑戦』
田村 知子／編著 学事出版 [K375コ]

□『100年企業が教える「人」を生かす経営』
浅井 康雄／著 講談社 [K525ア]

□『広島県の鉄道・路面電車』
杉田 新／編著 フォト・パブリッシング [K686ス]

次回の「郷土資料通信 KASUMI」は
2026年6月発行予定です。
お楽しみに!



福山市図書館
キャラクター
としよ子

『本屋の未来を、なぜか僕らが考えてみた』

坂上 俊次／著 寺嶋 良／著
ザメディアジョン [K024サ]

10の書店が紹介されている中に、啓文社ポートプラザ店があります。

このお店の特徴は、大きさや色の違う個性的なポップが数多く並んでいることです。統一感がないのは、お客さんに本屋だと認識してもらうための工夫です。また、ベストセラーからコアな本までぎっしりと書棚に詰め込んでいるのは、いろんな新刊を一覧で見ってもらうための工夫です。歴代書店員の工夫が凝縮されたお店は、「老舗うなぎ店のタレ」みたいだと藤川店長は言います。2023年には、雑誌売場の一角を「ガシャポンのデパート」に改装するという大きな挑戦をしました。その結果、幅広い層のお客さんが来るようになったそうです。書店員の様々な思いを知ることで本屋に行ってみようと思える1冊です。